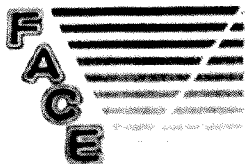


構造物の総合メンテナンス企業を経て2005年に独立、一人での創業だったため、当初はトンネル、橋梁、上下水道などの補修・補強のみを行っていた。しかし、社員数の増加に伴い、建築物の調査・診断・設計や赤外線サーモグラフィによる熱診断とい



「3次元計測システム化  
促進に尽力」



橋補修技術設計(江戸川区)  
代表取締役社長  
中馬 勝己 氏

った業務を受注できるまで事業の拡大に成功した。現在では、フィリピンに滞在するスタッフに画像処理を任せ、東京から指示を送る。

15年9月に発足した「M-CIM研究会」の代表に就任したのは、3Dレーザースキャナーや3D点群処理データによるモデリングを、管理者やコンサルタント会社などにも普及するため、3次元計測システム化の促進により、社会基盤構造物の維持管理の効率化がより容易になると信じ活動が続ける。

今後は、「3Dモデルオペレーターの育成、操作性の高い3D点群処理ソフトの開発などに積極的に携わっていく」と強い意志を見せた。

(佐藤和彦)